

2023 年の石油市場の展望

- 景気後退リスク、OPEC プラス減産、ウクライナ情勢のせめぎ合い - < 報告要旨 >

一般財団法人 日本エネルギー経済研究所
化石エネルギー・国際協力ユニット 石油グループマネージャー
研究主幹 森川 哲男

本報告のポイント

1. 景気減速で伸びは小さいが、石油需要は 2023 年に 1 億 140 万 b/d とパンデミック前を超える。OPEC プラス減産により石油供給の伸びも抑制され、2023 年の供給量は 1 億 90 万 b/d となる。
2. 2023 年の国際原油 (Brent) 価格は \$90/bbl が中心水準と予測する。景気後退による需要低迷、OPEC プラスの更なる減産強化、ウクライナ情勢は主要な不確実性である。

石油需給

3. 世界の石油需要は、2022 年第 3 半期に前年同期比で 190 万 b/d (1.9%) 増加し、パンデミック前の需要をほぼ回復した。但し、足元では中国の需要減少が影響し、需要増加ペースは鈍化している。
4. 中国の需要は、2022 年第 3 四半期に前年同期比で 60 万 b/d (4.3%) 減の 1,380 万 b/d であった。景気減速とロックダウン頻発で需要は低迷した。ウクライナ戦争勃発後にロシア産原油輸入量が増加しており、2022 年第 3 四半期の輸入量は前年同期比 30 万 b/d (18.9%) 増の 183 万 b/d であった。
5. 世界の石油供給は、2022 年第 3 四半期に前年同期比 470 万 b/d (4.8%) 増の 1 億 110 万 b/d となった。OPEC プラス及び米国の増産で需要を上回る伸びを示している。
6. 12 月 4 日の会合で OPEC プラスは 200 万 b/d の減産継続を決定した。ロシア産原油に対する価格キャップの効果を見極めるとされている。実質的な余剰生産能力が極めて低い状況は変わらず、供給途絶に対する対応能力は脆弱である。
7. 米国の原油生産量は、2022 年第 3 四半期に前年同期比 94 万 b/d (8.4%) 増の 1,203 万 b/d であった。米 EIA は 2023 年の生産量が 1,231 万 b/d とパンデミック前の水準に回復すると予測している。

8. 12月5日にG7・EU・豪州は、海上輸送されるロシア産原油に対する価格キャップを\$60/bblに設定した。同日にはEUがロシア産原油禁輸を導入した。2023年2月5日にはロシア産石油製品に対しても価格キャップが設定される。価格キャップの実効性やロシアの報復的禁輸の可能性等、不確実性は大きい。
9. 2022年10月のOECD在庫は39.9億バレル（商業在庫27.6億バレル、国家備蓄12.3億バレル）であった。3億バレルに及ぶ備蓄放出及び米国増産により、商業在庫は増加傾向にあるものの、引き続き過去5年平均値を大きく下回っている。

マクロ経済・金融市場

10. 世界GDP成長率は2022年の3.2%から2023年には2.7%に減速するとされている。2023年の景気後退リスクを踏まえ株価は不安定であるが、米国の利上げペースが緩和すればドル安で油価下支え材料になり得る。

以上

お問い合わせ: report@tky.ieej.or.jp